

判断を歪める「バイアス」

野瀬 隆平

新聞、テレビなどのマス・メディアから発せられる膨大な情報。それに加え最近ではSNSなどで流される雑多な情報が氾濫している。従来のマスコミによる情報は、不完全ながら出版社やラジオ・テレビ局のチェックが入っており、極端に偏った、あるいは間違った情報はあまり無いだろう。

しかし、SNSで発信される情報は、発信者が匿名であるか影響力のある著名人になりすましたものもあり、中には故意に誤った情報を流して拡散させようという悪意を持ったものもある。受け取る側が余ほど留意していないと、これらの誤った考え方に洗脳されてしまう危険が常に伴う。

これが外国から日本に悪意をもって意図的に行われるとすれば、国防上の観点からも重大な事と捉えなければならない。ミサイルを撃ち込まれるのと同様の危機感を持つて。

人には、自分の考えや信念を裏付ける都合の良い情報だけを信じ、それ以外を見ようしないという「認証バイアス」と呼ばれる心理的な傾向があるので、尚更心して様々な情報に接しなければならない。

近ごろ話題となっている日本に来る外国人に対する認識。誰しもが多少は持っている外国人に対する偏見が、このようなSNSなどで発信・拡散され情報によって、一般の人達が容易にその考えに同調し、洗脳されてしまう。

ちなみに、バイアスにはもう一つ「正常性バイアス」と云われるものがある。これは、予想外の危険や異常事態に直面したときに、「これは普通のことだ」、「自分だけは大丈夫だ」と、勝手に考えてしまう心理的傾向のことである。人間の脳は、急激な変化や危機に対応するにはエネルギーが必要なため、無意識のうちに「いつも通り」と判断し、面倒な思考から逃げて安心しようとするのである。云って見れば省エネ・モードに入る訳である。

このように、我々の判断の基準・ベースにあるのは、客観的な理性だけではない。無意識の内に働くバイアスが、しばしば現実の認識を歪めてしまう。